

法学研究科 法学研究科 (2009年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律理論特殊講義	商法第一特殊講義IA 今泉 恵子	2学期	1	2	1
		1年			
	商法第一特殊講義IIA 高橋 衛	1学期	1	2	2
		1年			
	民事訴訟法第一特殊講義IA 小池 順一	1学期	1	2	3
		1年			
	刑法第一特殊講義A 山本 光英	1学期	1	2	4
		1年			
	刑事訴訟法第一特殊講義A 吉村 弘	1学期	1	2	5
		1年			
	刑事学第一特殊講義A 朴 元奎	1学期	1	2	6
		1年			
	国際法第一特殊講義A 二宮 正人	2学期	1	2	7
		1年			
	国際法第二特殊講義A 未定	2学期	1	2	
		1年			
	日本法制史第一特殊講義A 岡 邦信	1学期	1	2	8
		1年			
	日本法制史第二特殊講義A 未定	1学期	1	2	
		1年			
法哲学第一特殊講義A 重松 博之	1学期	1	2	9	
	1年				
法哲学第二特殊講義A 未定	1学期	1	2		
	1年				
憲法第一特殊講義IA 植木 淳	2学期	1	2	10	
	1年				
憲法第一特殊講義IIA 落合 俊行	1学期	1	2	11	
	1年				
行政法第一特殊講義IA 岡本 博志	1学期	1	2	12	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律理論特殊講義	行政法第一特殊講義IIA	2学期	1	2	
	未定	1年			
	民法第一特殊講義IA	2学期	1	2	13
	矢澤 久純	1年			
	民法第一特殊講義IVA	2学期	1	2	14
	小野 憲昭	1年			
■法律実践特殊講義	商法第一特殊講義IB	1学期	1	2	15
	今泉 恵子	1年			
	民事訴訟法第一特殊講義IB	2学期	1	2	16
	小池 順一	1年			
	刑法第一特殊講義B	2学期	1	2	17
	山本 光英	1年			
	刑事訴訟法第一特殊講義B	2学期	1	2	18
	吉村 弘	1年			
	刑事学第一特殊講義B	2学期	1	2	19
	朴 元奎	1年			
	社会法第一特殊講義IB	2学期	1	2	20
	國武 英生	1年			
	国際法第一特殊講義B	1学期	1	2	21
	二宮 正人	1年			
	国際法第二特殊講義B	1学期	1	2	
	未定	1年			
日本法制史第一特殊講義B	2学期	1	2	22	
岡 邦信	1年				
日本法制史第二特殊講義B	2学期	1	2		
未定	1年				
法哲学第一特殊講義B	2学期	1	2	23	
重松 博之	1年				
法哲学第二特殊講義B	2学期	1	2		
未定	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律実践特殊講義	知的財産法第一特殊講義B 木村 友久	集中	1	2	24
		1年			
	知的財産法第二特殊講義B 未定	1学期	1	2	
		1年			
	法律実務第二特殊講義B 未定	1学期	1	2	
		1年			
	法律実務第二特殊講義B 未定	1学期	1	2	
		1年			
	憲法第一特殊講義IB 植木 淳	1学期	1	2	25
		1年			
	憲法第一特殊講義IIB 落合 俊行	2学期	1	2	26
		1年			
	行政法第一特殊講義IB 岡本 博志	2学期	1	2	27
		1年			
	行政法第一特殊講義IIB 未定	1学期	1	2	
		1年			
民法第一特殊講義IB 矢澤 久純	1学期	1	2	28	
	1年				
民法第一特殊講義IIB 福本 忍	2学期	1	2	29	
	1年				
民法第一特殊講義IIIB 中山 布紗	2学期	1	2	30	
	1年				
民法第一特殊講義IVB 小野 憲昭	1学期	1	2	31	
	1年				
行政法第一特殊講義IIIB 石森 久広	1学期	1	2	32	
	1年				
刑法第一特殊講義IIB 大杉 一之	1学期	1	2	33	
	1年				
■政策理論特殊講義	政治学第一特殊講義IIA 松田 憲忠	2学期	1	2	34
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■政策理論特殊講義	政治学第二特殊講義IIA 未定	2学期	1	2	35
		1年			
	行政学第二特殊講義IIA 未定	2学期	1	2	36
		1年			
	政治思想史第一特殊講義IA 中道 壽一	2学期	1	2	37
		1年			
	政治思想史第二特殊講義IA 未定	2学期	1	2	38
		1年			
	地域研究第一特殊講義IA 三宅 博之	1学期	1	2	39
		1年			
	地域研究第二特殊講義IA 未定	1学期	1	2	40
		1年			
	政策研究第一特殊講義IA 古賀 哲矢	2学期	1	2	41
		1年			
政策研究第一特殊講義IIA 楢原 真二	1学期	1	2	42	
	1年				
政策研究第一特殊講義IVA 申 東愛	2学期	1	2	43	
	1年				
政策研究第一特殊講義VIA 坂本 隆幸	1学期	1	2	44	
	1年				
■政策基礎特殊講義	政治学第一特殊講義IIB 松田 憲忠	1学期	1	2	45
		1年			
	政治学第二特殊講義IIB 未定	1学期	1	2	46
		1年			
	行政学第一特殊講義IB 森 裕亮	2学期	1	2	47
		1年			
行政学第二特殊講義IB 未定	2学期	1	2	48	
	1年				
	政治思想史第一特殊講義IB 中道 壽一	1学期	1	2	49
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■政策基礎特殊講義	政治思想史第二特殊講義IB 未定	1学期	1	2	44
		1年			
	地域研究第一特殊講義IB 三宅 博之	2学期	1	2	44
		1年			
	地域研究第二特殊講義IB 未定	2学期	1	2	45
		1年			
	政策研究第一特殊講義IB 古賀 哲矢	1学期	1	2	45
		1年			
	政策研究第一特殊講義IIB 楢原 真二	2学期	1	2	46
		1年			
	政策研究第一特殊講義IIIB 狭間 直樹	1学期	1	2	47
		1年			
政策研究第一特殊講義IVB 申 東愛	1学期	1	2	48	
	1年				
政策研究第一特殊講義VB 横山 麻季子	2学期	1	2	49	
	1年				
政策研究第一特殊講義VIB 坂本 隆幸	2学期	1	2	50	
	1年				
■政策応用特殊講義	政策応用第一特殊講義I 松尾 哲也	集中	1	2	51
		1年			
	政策応用第一特殊講義II 中園 哲	2学期	1	2	52
	1年				
■特別研究I	政策応用第一特殊講義IV 大久保 裕文 他	集中	1	2	53
		1年			
■特別研究I	商法第一特別研究 今泉 恵子	1・2学期 (ペア)	1	4	54
		1年			
	刑法第一特別研究 山本 光英	1・2学期 (ペア)	1	4	55
		1年			
	刑事訴訟法第一特別研究 吉村 弘	1・2学期 (ペア)	1	4	56
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究I	刑事学第一特別研究 朴 元奎	1・2学期 (ペア)	1	4	57
		1年			
	国際法第一特別研究 二宮 正人	1・2学期 (ペア)	1	4	58
		1年			
	国際法第二特別研究 未定	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	日本法制史第一特別研究 岡 邦信	1・2学期 (ペア)	1	4	59
		1年			
	日本法制史第二特別研究 未定	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	政治思想史第一特別研究 中道 壽一	1・2学期 (ペア)	1	4	60
		1年			
	政治思想史第二特別研究 未定	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	地域研究第一特別研究 三宅 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	61
		1年			
	地域研究第二特別研究 未定	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
政策研究第一特別研究 古賀 哲矢	1・2学期 (ペア)	1	4	62	
	1年				
政策研究第一特別研究 楢原 真二	1・2学期 (ペア)	1	4	63	
	1年				
政策研究第一特別研究 坂本 隆幸	1・2学期 (ペア)	1	4	64	
	1年				
憲法第一特別研究 落合 俊行	1・2学期 (ペア)	1	4	65	
	1年				
行政法第一特別研究 岡本 博志	1・2学期 (ペア)	1	4	66	
	1年				
民法第一特別研究 小野 憲昭	1・2学期 (ペア)	1	4	67	
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2009年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■特別研究I	法哲学第一特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	68
	重松 博之	1年			
	法哲学第二特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	
	未定	1年			
■特別研究II	私法領域第一特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	69
	小野 憲昭	1年			
	私法領域第二特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	
	未定	1年			
	公法領域第一特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	70
	岡本 博志	1年			
	公法領域第二特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	
	未定	1年			
	地域政策第一特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	71
	中道 壽一	1年			
国際政策第一特別研究	1・2学期 (ペア)	1	4	72	
三宅 博之	1年				

法学研究科 法学研究科 (2009年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■法律実践特殊講義	民事訴訟法第一特殊講義IIB	1学期	1	2	73
	中村 仁	1年			
■法律実践特殊講義	法律実務第一特殊講義B	1学期	1	2	74
	中村 仁 他	1年			
■政策応用特殊講義	政策応用第一特殊講義III	1学期	1	2	75
	古田 稔	1年			

商法第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、企業活動に関連して発生している金融上の諸問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

特に、最近の世界金融危機と現行の法制度との相互作用についても一緒に考えてみたい。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明。興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認し、あるいは問題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる(裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、また、入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める)。
- 第3回 候補テーマを紹介し合う。テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)、探してみるべき資料などについて、お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)および報告順番を決定する。
- 第5回～第15回 各担当者(グループ)による報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法第一特殊講義IIA 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

諸外国の会社法制との比較分析を通じて我が国の会社法の理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

以下の文献を予定しています。

Reinier Kraakman et al., The Anatomy of Corporate Law (Oxford U.P.)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、基本的な論点について研究し、レポート・論文を作成することを目的とします。
レポート・論文の分量は、10000字程度を予定しています。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定します。

教科書 /Textbooks

特に、指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文のテーマの決定
- 2回 以下、個別指導
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート・論文 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特殊講義A 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 受講生の研究テーマに応じて、刑法的知識の拡充を図り、より一層深い刑法学に関する幅広い知識と論理的思考力を身につけることをねらいとする。

教科書 /Textbooks
 開講後、適宜決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 開講後、適宜決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート及び平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第一特殊講義A 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法に関する外国文献を用い、外国の状況を考察する。

教科書 /Textbooks

最初の時間に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談しながら決める予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 40 % 訳 ... 50 % 質疑応答 ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に文献を十分に訳しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第一特殊講義A 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「アメリカ犯罪学理論の現状」をテーマとして、以下の文献を輪読・検討します。アメリカ犯罪学研究における理論構築と理論検証の両側面における最新の動向を検討することによって、犯罪学理論に関する知見を深めることが、本授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

Francis T. Cullen, John Paul Wright & Kristie R. Blevins (eds.), Taking Stock: The Status of Criminological Theory. (Advances in Criminological Theory Volume 15), New Brunswick, USA: Transaction Publishers, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J. Robert Lilly, Francis T. Cullen, & Richard A. Ball, Criminological Theory: Context and Conquences. (4th ed.), Thousand Oaks, CA: Sage Publications, 2006.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～14回 テキストの輪読。毎回分担を決め、読み進めていきます。
- 15回 レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学の一層深く理解したい場合は、刑法および刑事訴訟法の受講をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第一特殊講義A 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際法の判断を含む国内裁判所の判例を取り上げます。まず国内法制と国際法との関係などの総論部分の理解を深めた上で、次に国内判例等を通じ、国際基準が具体的事案の中で国内で実際にどのように適用されていくのかについて検討していきます。どのような判例を読むかは、受講者と相談の上、決定します。

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jp迄。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールに関しては、開講後、すみやかに発表します。

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 テーマ決定、判例検索
- 第3回以降 判例の精読

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。

クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。がんばってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史第一特殊講義A 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世の法の存在形態と法意識を探ることを目途とし、史料講読

教科書 /Textbooks

受講者を見て決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者による史料輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第一特殊講義A 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

広い意味で現代正義論を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。テキストや参考書は、参加者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2回～第3回は、あらかじめ用意したプリントを用いて、分担して報告し議論する。第4回～第13回は、選択したテキストを分担して報告し議論する。第14回～第15回は、まとめ。

具体的なテキストの候補の一つとしては、現代ドイツにおける社会哲学の第一人者とも言うユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論に关する研究-(下)』(木鐸社)の検討を暫定的に想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、上記のように、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的には、憲法判例研究を行う。ただし、なるべく各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をしていただきたい。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、十分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸松秀典・初宿正典『憲法判例(第4版)』(有斐閣・2002年)
浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2008年アメリカ大統領選挙で民主党のバラク・オバマが勝利しました。オバマ政権の政策とアメリカの政治システム・選挙制度などについて、活字メディアや電波メディアを使って多角的に勉強します。また、オバマ大統領の半生を描いた本を読みます。講読文献、視聴番組は英語です。

教科書 /Textbooks

Peter Wallison and Joel Gore 「Better Parties, Better Government」
Barack Obama 「The Audacity of Hope」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から3回 オバマの半生とオバマの勝利演説
4回から6回 アメリカの議会制度
7回から9回 アメリカの裁判制度
10回から14回 アメリカの選挙制度
15回 まとめ (政治制度の日米比較)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 授業発言・討論 ... 20 % 定期試験... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日英字新聞(ジャパン・タイムズ)を読むこと。テレビのニュースやドキュメント番組を見ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「行政訴訟」
行政訴訟における諸問題につき、改正後の行政事件訴訟法の解釈論を中心として検討する。

教科書 /Textbooks

橋本博之『要説行政訴訟』（2006年、弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本博之『解説行政事件訴訟法』（2004年、弘文堂）
 宇賀克也『改正行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）
 日本弁護士連合会行政訴訟センター編
 『実務解説行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）
 小林久起『司法制度改革概説3 行政事件訴訟法』（2004年、商事法務）
 松永邦男・小林久起『Q&A改正行政事件訴訟法』（2005年、ぎょうせい）
 園部逸夫・芝池義一編『改正行政事件訴訟法の理論と実務』（2006年、有斐閣）
 小早川光郎編『改正行政事件訴訟法』（ジュリスト増刊、2005年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 2回～ 4回 行政訴訟制度の沿革
 5回～ 6回 行政訴訟の種類
 7回～ 10回 抗告訴訟
 (抗告訴訟の意義、類型区分、訴訟要件、審理過程、判決)
 11回 当事者訴訟
 12回 民衆訴訟と機関訴訟
 13回～ 14回 仮の権利保護
 15回 まとめ

※授業においては参加者に報告を求めることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法の知識があることを前提とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀ドイツ法学の精華に触れるために、19世紀のドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、ドイツ亀甲文字の文献を使う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IVA 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最高裁判例を素材としながら、これまで学部で培ってきた民法に対する知識や理解を深めるとともに、民法研究に必要な基礎作業ができるようになることを目的としています。また、受講生から希望があれば、ドイツ民法またはフランス民法の基本的な文献を輪読しながら、わが国の民法上の問題点が外国の判例や学説ではどのように解決されているのか、一緒に検討してみようとも思っています。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定
- 3回 判例及び判例研究の方法に関する基礎知識の確認①
- 4回 判例及び判例研究の方法に関する基礎知識の確認②
- 5回～14回 研究報告と討論 (以下14回まで)
- 15回 研究成果の確認-まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 積極的参加度... 20% 研究レポート(2000字詰原稿用紙30枚程度)... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告の際にはレジユメを用意してください。受講生も討論に積極的に参加するよう求めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なケースを取り上げながら、証券業・銀行業・保険業・信託業といった企業分野で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明。テーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認し、あるいは問題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる(裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、また、入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める)。
- 第3回 候補テーマを紹介し合う。テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)、探してみるべき資料などについて、お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)および報告順番を決定する。
- 第5回～第15回 各担当者(グループ)による報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、重要な論点について研究し、レポート・論文を作成することを目的とします。
レポート・論文の分量は、10000字程度を予定しています。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定します。

教科書 /Textbooks

特に、指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文のテーマの決定
- 2回 以下、個別指導
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート・論文 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特殊講義B 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに応じて、刑法的知識の拡充を図り、より一層深い刑法学に関する幅広い知識と論理的思考力を身につけることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

開講後、適宜決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講後、適宜決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート及び平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第一特殊講義B 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法に関する外国文献を用い、外国の状況を考察する。

教科書 /Textbooks

最初の時間に指定する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談しながら決めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 40 % 訳 ... 50 % 質疑応答 ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に十分に訳をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第一特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑事学方法論」をテーマとして、アメリカ犯罪学・刑事司法政策における調査研究方法論の基礎を学びます。調査研究方法論に関する代表的な基本書を読み、実証研究を実行しうる基礎的な知識および実証研究を批判的に分析しうる能力の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

Michael G. Maxfield & Earl R. Babbie, Research Methods for Criminal Justice and Criminology (with CD-ROM and InfoTrac).(4th ed.), Wadsworth Publishing, 2004.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Earl E. Babbie, The Practice of Social Resarch, (11 ed.) , Wadsworth Publishing, 2006.
 ○Jon L. Proctor & Diane M. Badzinski, Introductory Statistics for Criminal Justice and Criminology. Prentice Hall, 2002.
 ○E.バビエ著(渡邊聡子監訳)『社会調査法 1 基礎と準備編』(培風館、2003年)
 ○E.バビエ著(渡邊聡子監訳)『社会調査法 2 実施と分析編』(培風館、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
 2回～14回 テキストの輪読。毎回分担を決め、読み進めていきます。
 15回 レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学の一層深く理解したい場合は、「刑事学第一特殊講義B」「刑法特殊講義」および「刑事訴訟法特殊講義」の受講をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法第一特殊講義IB【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労働法が直面している現代的課題について、裁判例の分析と政策的方策の双方から研究する。前者の側面においては、解釈学が中心となるが、後者については現状把握、政策分析等が中心となる。具体的に想定しているテーマは、(1) 個別的労働法の領域では、労働法の適用対象、労働契約法制、労働時間法制、(2) 集団的労働法の領域では、不当労働行為制度の今後のあり方、従業員代表制の立法化、(3) 労働市場法の領域では、若年就労支援政策、非正規雇用政策のあり方、などを考えている。

教科書 /Textbooks

テーマ毎に適宜示す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ毎の関連文献の分析が中心になる。それをふまえて、司法的な対応の仕方、立法的課題の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第一特殊講義B 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国連の設立基本条約である国連憲章を取り上げ、それを逐条的に検討していくことを通じ、国際機構法についての理解を深めることを目的とします。国連憲章の条文ごとに、同規定はどのように一般的に解されているのか、また、同規定に対する国連の実行はどのような特徴を示しているのか、について検討していきます。今回は、とくに安全保障理事会関連の条項について取り上げようと考えています。

教科書 /Textbooks

Bruno Simma, The Charter of the United Nations; A Commentary, Oxford Univ. Press, 1994
United Nations, Repertory of Practice of the United Nations, On web-site, www.un.org

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田岡良一『国際連合憲章の研究』(有斐閣, 1949年) ○
藤田久一『国連法』(東京大学出版会, 1998年) ○
なお、その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールに関しては、開講後、すみやかに発表します。
第1回 コースガイダンス
第2回以降 以下の問題について、テキストの予習をもとに、クラスを行っていきます。
第1パート 基本原則に関する条項
第2パート 安全保障理事会に関する条項
第3パート 安全保障理事会と他機関との関係に関する条項

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。がんばってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史第一特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前近代の日本の法について史料講読

教科書 /Textbooks

受講者のみで決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者による史料の輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第一特殊講義B 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・正義・権利に関する基礎的考察を本講義の主題とする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。テキストや参考書は、参加者の研究テーマや問題関心に依じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2回～第3回は、あらかじめ用意したプリントを用いて、分担して報告し議論する。第4回～第13回は、選択したテキストを分担して報告し議論する。第14回～第15回は、まとめ。

具体的なテキスト・内容は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。暫定的には、ヘーゲル(上妻精他訳)『法の哲学(上巻)(下巻)』(岩波書店)またはユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究-(下)』(木鐸社)のうち、いずれか一方の精読・検討も、選択肢の一つとして考えている。ただし、受講生と相談のうえ、受講生の問題関心に依じて、上記以外のテキストをとりあげる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知的財産法第一特殊講義B【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会のソフト化高度化に伴い知的財産のもたらす価値が増大している。知的財産を概観すると、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分されるが、知的財産法第二特殊講義Bは「思想または感情の創作物に関わるもの」と「営業上の信用が化体されているもの」を保護する著作権法・不正競争防止法を重点的に扱う。

教科書 /Textbooks

「著作権判例百選」有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

半田正夫著「著作権法概説」一粒社
作花文雄「詳解著作権法」ぎょうせい
斎藤博・半田正夫編「著作権判例百選(別冊ジュリスト)」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要、各国の著作権制度
2. 著作権の保護客体I～著作物の定義と種類、二次的著作物および編集著作物
3. 著作権の保護客体II～プログラムの著作物、データベースの著作物
4. 著作権の保護客体III～キャラクター、タイプフェイス等
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権、著作者の死後の扱い
7. 著作権(著作財産権)I～著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権
8. 著作権(著作財産権)II～公衆送信権、その他の著作財産権
9. 著作権(著作財産権)III～著作権の制限、特に引用の考え方
10. 著作権侵害I～要件、依拠及び類似性等の判断
11. 著作権侵害II～著作権侵害の効果、権利の用尽等
12. 著作権侵害III～みなし侵害
13. 著作隣接権～概論、実演家の権利、放送事業者の権利
パブリシティの権利
14. 商標登録要件(実体的要件)と商標権侵害・不正競争防止法、パブリシティの権利
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割、残りはレポートや発表内容等の資料を利用して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的には、憲法判例研究を行う。ただし、なるだけ各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をしていただきたい。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、十分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸松秀典・初宿正典『憲法判例(第4版)』(有斐閣・2002年)
浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特殊講義IIB 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2008年アメリカ大統領選挙で民主党のバラク・オバマが勝利しました。オバマ政権の政策とアメリカの政治システム・選挙制度などについて、活字メディアや電波メディアを使って多角的に勉強します。講読文献、視聴番組は英語です。内容は、1学期のつづきです。

教科書 /Textbooks

Peter Wallison and Joel Gore 「Better Parties, Better Government」
Barack Obama 「The Audacity of Hope」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回から3回 オバマの勝利演説・就任演説・核廃絶演説
- 4回から6回 アメリカの外交政策(日米関係)
- 7回から9回 アメリカの憲法・法律問題(連邦最高裁判決の検討)
- 10回から14回 アメリカの文化・社会問題
- 15回 まとめ(政治制度の日米比較)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 授業発言・討論 ... 20 % 定期試験... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日英字新聞(ジャパン・タイムズ)を読むこと。テレビのニュースやドキュメント番組を見ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第一特殊講義IB【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「情報公開法」
情報公開法制（情報公開法、情報公開条例）について解説し、あわせて情報公開に関する判例を検討することを通して情報公開法制についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（1999年、ぎょうせい）
宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説（第4版）』（2008年、有斐閣）
その他の参考文献については、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～ 4回 情報公開法の基本原理
- 5回～ 10回 情報公開法・情報公開条例の仕組み
- 11回～ 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60 % 討議への参加状況（報告を含む） ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ法学の成果に触れるために、ドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ民法の条文は、洋書取扱店で、事前に購入しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IIB 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法財産法分野に関する学術論文（なかでも、フランス法を比較ないし分析の対象としている論説等）の検討を行う。学部時代に培った分析力を総動員して、質の高い報告ならびに論文執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の体系書・基本書、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版の小型六法必携。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）
山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）
山口俊夫『概説フランス法下』（東京大学出版会、2004年）
※その他については適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス（受講人数等の事情により、授業の進め方・報告形式を変更する場合がある。）：授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。
第2回：報告する学術論文の概要の報告（受講院生全員）。採り上げる論文は各院生の任意とする。ただし、財産法に関するもので、かつ、フランス民法を主たる考察対象としているものを原則とする。この条件を満たすのであれば、テーマは問わない。
第3回：教員による報告と質疑・応答。
第4回～第10回（予定）：報告（1回の授業で一人報告）および質疑・応答。
第11回～第14回（予定）：フランス民法（主として債務法分野）の原著を読む。ただし、受講院生がフランス語を読めない場合、他の内容を協議のうえ決定。
第15回：まとめ
●最終授業終了時、論文（8,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を主たるテーマとした論説とする。なお、執筆要領その他の詳細は初回ガイダンス時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

●出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...80%
●提出された論文の内容...20% ※（注意）論文未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備、論文執筆など、かなり負担の大きい授業である。わが国の民法は当然のこと、フランス民法にも強い関心がないと生産的な研究にならない。事前に参考文献に目を通すなどしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義III B 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス法律文献を読み、読解力を身に付けながら法的思考を養うことを目的とする。今年度は、民法典と憲法との関係について考察が加えられた文献を素材とする。

また、本講義は、テキストを読むだけにとどまらず、フランスの法制度と日本の法制度・法解釈（日本民法における原理・原則、法解釈）との異同について比較検討も行う。

教科書 /Textbooks

VERPEAUX(M), CODE CIVIL ET CONSTITUTION(S), ECONOMICA, 2005.

* 推薦辞書、文法書、関連文献等、いずれも講義中に適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（上記テキストを選定した理由と受講に際しての注意事項を説明し、フランス民法典の構成や特徴などについて概説する。）
- 2回 読解①
- 3回 読解②
- 4回 読解③
- 5回 読解④
- 6回 読解⑤
- 7回 読解⑥
- 8回 読解⑦
- 9回 読解⑧
- 10回 読解⑨
- 11回 読解⑩
- 12回 読解⑪
- 13回 読解⑫
- 14回 読解⑬
- 15回 読解⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および平素の受講態度、発言等演習への貢献度、および訳出にかける熱心さ・・・40%

学期末レポート・・・60% * なお無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、フランス語を読めること（読もうとすること）が要求される。講義中は、受講者をランダムに指名する（事前に訳出箇所を振り分けません）。指名された者は一文を音読した後、日本語の訳出を行うこと。* 輪読形式です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特殊講義IVB 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最新の最高裁判例を素材としながら、これまで学部において培ってきた民法に対する知識や理解を一層深めるとともに、具体的な解釈論が展開できるようになることを目的としています。演習全体のキーワードは、民法判例理論の展開と課題です。

教科書 /Textbooks

最高裁判例の解説をまとめたプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定
- 3回 判例研究の方法に関する基本事項の確認
- 4回 判例研究の方法に関する基本事項の確認
- 5回～14回 研究報告及び討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度... 10% レポート... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。必要なことは開講時に指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第一特殊講義IIIB 【昼】

担当者名 石森 久広 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地方自治領域を対象に法と政策を考察する。地方公共団体の権能のうち自治立法権、法令の独自解釈権に焦点を当て、法による政策実現の理論と実践に触れることを目指す。また、これを通じて行政法理論への反映の可能性について検討する。講義全体のキーワードは、地方自治の法と政策、地方分権、行政法理論である。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、各回、読んでくる文献・資料を提示する。第1・2回目は、行政法の特徴を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高田敏・村上武則編『ファンダメンタル地方自治法〔第2版〕』(法律文化社、2009)
中川義朗編『21世紀の地方自治を考える - 法と政策の視点から〔第2版〕』(法律文化社、2010予定)
地方自治判例百選〔第3版〕(有斐閣、2003)
幸田雅治ほか『政策法務の基礎知識〔第二版〕』(第一法規、2008)
磯崎初人編『政策法務の新展開』(ぎょうせい、2004)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回～第 2 回 行政法の特徴
判例：農地買収処分と民法177条、租税滞納処分と民法177条、会計法30条
- 第 3 回～第 4 回 法律と条例の関係(1)
判例：徳島市公安条例事件、飯盛町、宝塚市、伊丹市
- 第 5 回～第 6 回 法律と条例の関係(2)
判例：広島市暴走族、宗像市環境保全、日田市場外車券
- 第 7 回～第 8 回 法律と条例の関係(3)
判例：大牟田市電気税、東京都外形標準、神奈川県法定外税条例
- 第 9 回～第 10 回 行政の手法
規制的手法、実効性確保手法、行政手続き
- 第 11 回～第 12 回 憲法と条例
基本的人権と条例、自治立法の動向
- 第 13 回～第 14 回 市民による監視と統制
行政事件訴訟、国家賠償、住民訴訟、情報公開訴訟
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前準備・・・20点 授業への参加・奇与度・・・60% 課題・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくになし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特殊講義IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法に関して近年議論されている重要な理論的問題を取り上げて考察を加える。刑法に関する知識を拡充し、刑法理論の理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (レポート・レジюмеを含む) ... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※無断欠席を厳禁する。また、2 / 3 以上の出席を要求する。
 ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察していく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学第一特殊講義IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策の議論・分析・提案には、「複数の価値を如何に取り扱うか」という問題が常に伴う。この価値の問題は容易には解決できない。何故なら、第一に、一つの価値（例：自由）を具体的に定義しようとする、相対立し得る複数の定義が可能となるからである（例：積極的自由vs.消極的自由）。第二に、複数の価値（例：自由と平等）を同時に追求することは、多くの場合、非常に難しいからである。結果として、ある政策の是非をめぐっては、複数の立場が衝突することが避け難くなる。本講義では、政策の議論・分析・提案をめぐる価値の問題について論究する。

教科書 /Textbooks

Jenny Stewart, 2009, Public Policy Values (Palgrave Macmillan).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1回 ガイダンス | 9回 Greenness and growth |
| 2回 What are policy values? | 10回 Universality and choice |
| 3回 Value conflict and policy change | 11回 Public policy values revisited |
| 4回 Implementing fairness | 12回 受講生による自由論題報告 |
| 5回 The impact of efficiency | 13回 受講生による自由論題報告 |
| 6回 Values and policy instruments | 14回 受講生による自由論題報告 |
| 7回 Where policy meets the personal | 15回 総括 |
| 8回 Values and public management | |

- ※ 自由論題報告では、受講生が関心のあるテーマについて、本講義の内容を踏まえて報告する。
- ※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1)報告書とプレゼンテーション...60%
- (2)議論への積極的な参加...40%
- ※(1)・(2)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められない。
- ※出席は単位修得の必要条件である（やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁である）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 授業前にリーディング・アサインメント（各回にテキスト1-2章）を読んでくること。
- ② 報告担当者は各回のリーディング・アサインメントを基に報告書の作成・配布とプレゼンテーションを行うこと（その際、リーディング・アサインメントの要約に加えて、何らかの問題の提起と、その問題に対する暫定的な意見を含めること）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)

これまで、「現代政治思想」というテーマの下に、亀嶋庸一『20世紀政治思想の内部と外部』(岩波書店)を用いて、シュミット、アレントの政治思想やナショナリズムの政治思想について考察したり、岡野加穂留・伊藤重行編『政治思想とデモクラシーの検証』(東信堂)を用いて、ホッブズ、スピノザ、ルソーなどに関する諸論文を読み、また、生松敬三『二十世紀思想狩猟』(岩波現代文庫)を用いて、現代思想の萌芽や1920年代の政治文化を考察し、受講生の論文作成と関係付けながら、議論した。今年度も、「現代政治思想」というテーマの下に、受講生の論文作成との関連で具体的なテーマを決めるつもりであるが、受講生の特別の希望がなければ、「現代政治思想」を代表する幾人かの政治思想家を取り上げ、その理論を考察する予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献の一つとして、藤原保信『20世紀の政治理論』(藤原保信著作集第5巻 新評論、2006年)を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

特に希望がなければ、以下の内容で進めます。

第1-5回 科学とイデオロギー(ウェーバー、シュミット、マンハイム)

第6-10回 政治哲学の再生(ロールズ、ドゥオーキン、ノズィック)

第11-15回 モダンとポスト・モダン(アレント、ハーバーマス、フーコー)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点の加味、レポートあるいはそれに代わるもの

出席...20% 発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメ作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、まちづくりや開発においてよく用いられている「参加型」手法を使用し、地域・環境問題の発見、それをベースにした環境教育手法を整備する学習を行う。そのため、実習として一部、休暇などを利用して集中した授業を行うこともある。

教科書 /Textbooks

- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年
- * 森時彦『ファシリテーターの道工具箱』ダイヤモンド社、2008年
- * その都度、資料の配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 地域・環境問題の発見 【地域・環境問題】
- 3回 地域・環境問題と参加型手法 【参加型手法】
- 4回 ファシリテーションの概念把握と実践 【 】
- 5回 地域・環境教育理論の紹介(1)
- 6回 地域・環境教育理論の紹介(2)
- 7回 参加型地域・環境教育モデル(アクティビティ)の紹介(1)
- 8回 参加型地域・環境教育モデル(アクティビティ)の紹介(2)
- 9回 参加型地域・環境教育モデル(アクティビティ)の紹介(3)
- 10回 発見した環境問題への解決のための地域・環境教育モデル(アクティビティ)作り(1)
- 11回 発見した環境問題への解決のための地域・環境教育モデル(アクティビティ)作り(2)
- 12回 発見した環境問題への解決のための地域・環境教育モデル(アクティビティ)作り(3)
- 13回 受講生による地域・環境教育モデル発表
- 14回 受講生による地域・環境教育モデル発表
- 15回 まとめ＝ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 発表方法・内容 ... 50 % 討論への参加 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定資料の事前読解

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、都市内外の環境は大きく変化し、地域間格差が拡大していると言われる。この講義では、特に技術系企業の振興に焦点を当てて、地域イノベーションシステムを確立する観点から、地域の産業振興政策はどうあるべきかを探る。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1回 ガイダンス | 2回 わが国の産業政策の潮流 |
| 3回 産業政策と国土政策の関係 | 4回 地方自治体の産業政策の概要 |
| 5回 地方自治体の中小企業政策 | 6回 産業集積理論の変遷 |
| 7回 産業クラスター計画 | 8回 産業クラスター計画の課題 |
| 9回 技術系中小企業の課題 | 10回 技術移転の仕組み |
| 11回 技術移転機関のあり方 | 12回 産業支援機関の機能 |
| 13回 地域の産業支援機関のあり方 | 14回 地域イノベーションシステム |
| 15回 レポート提出 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治・地域産業に関心を持ち、社会経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。
講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えているが、できればまちづくりを中心とした問題（たとえば、中心市街地の空洞化問題等）を取り上げたいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入
 - 2 基本書の輪読 (プレゼンテーションを含む)
 - 3 講師からの問題提起と議論 (およびレポートの作成)
 - 4 その他
- * 基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにした。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (プレゼンテーションを含む) ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IVA 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政策過程と政治現象を理解するため、著作を読んで議論し、それに関する理解と知識を広げてもらう。各自の論文テーマに関連する政策過程論の資料について議論する。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、政策過程、ガバナンスに関する著作を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会、
 秋月謙吾 (2001)、行政・地方自治、東京大学出版会
 宮川公男 (2002)、政策科学入門、東洋経済新報社
 その他、ガバナンス、関連の論文、
 以上の本、論文を、参加者の論文テーマに合わせ、議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 紹介、読みたい本を選ぶ。
 第 2回 ~ 第 5回 宮川公男、政策科学入門
 第 6回 ~ 第 9回 中野実、現代日本の政策過程
 第 10回 ~ 第 14回 秋月謙吾、行政・地方自治。

その他、論文のコピーを配布する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義VIA 【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する（諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など）。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

*政策研究特殊講義VI Bとの違いは、Aは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してBはAの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

教科書 /Textbooks

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

Alberto Alesina and Francesco Giavazzi. 2006. The Future of Europe: Reform or Decline. Cambridge: The MIT Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前読み終えて授業に臨む。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長と平等; 3. 成長と平等II; 4. 資本主義経済の諸類型; 5. 雇用・失業の様態; 6. 雇用・失業の様態II; 7. 雇用保護・解雇規制と雇用; 8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差; 9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II; 10. 福祉政策、所得再分配、経済成長; 11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II; 12. 福祉国家の縮小とデータ; 13. 福祉国家の縮小とデータII; 14. 遅れをカバーするための授業; 15. まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が40%、(2)研究論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学第一特殊講義IIB 【昼】

担当者名 松田 憲忠 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政治や政策の研究において「比較」と「理論」は極めて重要である。比較分析は、各自が関心を抱いている事例を相対的に見ることを可能にする。理論的視点は、分析を論理的・科学的に進めるうえで不可欠である。本講義では、政治や政策の研究における比較の方法や理論の重要性を考察し、また幾つかの主要な理論の概観を行う。

教科書 /Textbooks

特になし。

(開講時に、各回の授業に割り当てられる文献(リーディング・アサインメント)を提示する。日本語文献が中心である。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス	9回 理論の役割II
2回 リサーチ・デザインI	10回 比較とは何か
3回 リサーチ・デザインII	11回 比較の方法
4回 演繹と帰納	12回 受講生による自由論題報告
5回 サンプルング、統計的有意性	13回 受講生による自由論題報告
6回 推論における注意点I	14回 受講生による自由論題報告
7回 推論における注意点II	15回 総括
8回 理論の役割I	

※ 自由論題報告では、受講生が関心のあるテーマについて、本講義の内容を踏まえて報告する。

※ 受講生の人数や関心等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)報告書とプレゼンテーション...60%

(2)議論への積極的な参加...40%

※(1)・(2)の一つでも行わなかった場合、特別な理由がない限り、単位修得は認められない。

※出席は単位修得の必要条件である(やむを得ない場合を除き、欠席・遅刻は厳禁である)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 授業前にリーディング・アサインメント(各回に論文2-3本)を読んでくること。
- ② 報告担当者は各回のリーディング・アサインメントを基に報告書の作成・配布とプレゼンテーションを行うこと(その際、リーディング・アサインメントの要約に加えて、何らかの問題の提起と、その問題に対する暫定的な意見を含めること)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代行政研究の最近の動向をとりあげて、具体的な現象にも触れながら、検討を行うこととする。とりわけ、近年の行政研究において話題になるようになってきている「ガバナンス」概念に注目する。ガバナンス概念は、分野によってその使用法は異なるが、とりわけイギリス行政学においては、政府機能の拡大に伴うビッグ・ガバメントの成立によって、政府機構を通じた公共的問題の解決能力の限界が明らかにされる中で、各種の公共的問題に対処する複合的な組織間ネットワーク形成が図られるようになってきた状況をとらえる概念として使われている。また、政治や行政が、政府、住民、企業の間で一層の相互依存の深化をみせるようになったことをとらえ、新しい政治と行政のあり方とそれにかかわる主体間の関係をとらえようとする概念だとすることもできる。本講義は、こうしたガバナンス概念に関する議論と分析を中心に進めていく。また、三位一体改革、市町村合併など、地方自治の分野のアップ・トゥ・デートな課題についても講義・議論する予定である。

教科書 /Textbooks

受講生の関心を重要視したい。大学院レベルなので外国文献を講読する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、国内外ともに数えきれないほどあるので、授業中にその都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン(担当者自己紹介、受講者自己紹介、授業のガイダンスなど)
- 第2回 ガバナンス概念についての講義
- 第3回-14回 テキストの輪読と議論
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの輪読のためには、相応の準備が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)

これまで、「現代政治思想」というテーマの下に、受講生との相談の上、佐藤正志・添谷育志編『政治概念のコンテクスト』(早稲田大学出版部)を用いて、立憲主義、自然法、功利主義、ユートピア、社会契約などの基本概念について考察したり、E・バリバール、I・ウォーラーズテイン『人種・国民・階級』(大村書店)を用いて、人種主義、ナショナリズム、エスニシティなどについて考察してきた。今年度も、受講生の論文作成との関連で具体的なテーマを決めるつもりであるが、受講生の特別の希望がなければ、「現代政治思想」を代表する幾人かの政治思想家を取り上げ、その理論を考察する予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献の一つとして、藤原保信『20世紀の政治理論』(藤原保信著作集第5巻、新評論、2006年)を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

特に希望がなければ、以下の内容で進めます。

第1 - 8回 危機の政治思想

第9 - 15回 ポスト・モダンの政治思想

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 発表... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジユメの作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究第一特殊講義IB【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、まちづくりや開発においてよく用いられている「参加型」方式の意味を考える。そのためには社会関係資本と参加型開発の概念がきちんと理解されていなければならない。本授業では、まず、それらを理解し、実例の検討を行っていききたい。

教科書 /Textbooks

- * 佐藤寛編『参加型開発の再検討』JETRO/アジア経済研究所、2003年
- * 佐藤寛編『援助と社会関係資本』JETRO/アジア経済研究所、2001年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 参加型開発の概念規定 【参加型開発】
- 3回 参加型開発の手法 【手法】
- 4回 女性の参加 【女性】
- 5回 参加型開発におけるNGOの役割 【NGO】
- 6回 参加型開発の事例紹介(1)
- 7回 参加型開発の事例紹介(2)
- 8回 参加型開発の事例紹介(3)
- 9回 社会関係資本の概念規定 【社会関係資本】
- 10回 開発事業の中に見る社会関係資本(1)
- 11回 開発事業の中に見る社会関係資本(2)
- 12回 開発事業の中に見る社会関係資本(3)
- 13回 受講生による参加型開発と社会関係資本に対する批評 【批評】
- 14回 受講生による参加型開発と社会関係資本に対する批評
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 発表方法・内容 ... 50 % 討論への参加 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定資料の事前読解

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IB 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、都市内外の環境は大きく変化し、地域間格差が拡大していると言われる。その中で地方都市は、地域の産業を育成し、人口の流出を防ぎ、都市の活性化と持続的な発展に向けて、たゆまぬ努力を続けている。この授業では、地方都市の特性を踏まえて、地域の産業を振興するための政策はどうあるべきかを探る。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1回 都市経営の目的と自治体の使命 | 2回 地方分権の動き |
| 3回 自治体の組織原理の変化 | 4回 都市を取り巻く外部環境の変化 |
| 5回 都市経営とトップ・マネジメント | 6回 人的資源管理の理論と実態 |
| 7回 地方公務員の雇用環境 | 8回 新しい都市経営の主体 |
| 9回 市町村合併、道州制 | 10回 科学技術政策 |
| 11回 産業クラスター計画と自治体の政策 | 12回 中心市街地と商業振興政策 |
| 13回 コンパクトシティ | 14回 出身地の直面する課題と原因 |
| 15回 レポート提出 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治・地域産業に関心を持ち、社会経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、できれば先進自治体の公共政策の検討や「評価研究」等のはごたえのある内容を取り上げたいと考えている。また、都市部の「限界コミュニティ」の問題など最先端の問題にも触れることにしたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 イントロダクション

2 日本の先進自治体の公共政策の検討

3 北九州市における公共政策の検討

4 政策評価

5 その他

* 基本的には開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等を決定することにした。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (プレゼンテーション等も含む) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IIIB 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
					○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を購読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学術論文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思っております。受講生の発表もぜひ聞いてみたいと思っています。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。下記のとおり、関連のある文献の必要箇所を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1 - 第5回 福祉国家と市場化

- ・ 福田耕治・真淵勝・縣公一郎編(2002)『行政の新展開』法律文化社。
- ・ 小笠原浩一・武川正吾編(2002)『福祉国家の変貌』東信堂。

第6回 - 第10回 福祉サービス編

- ・ 赤川学(2005)『子どもが減って何が悪い!』ちくま新書。
- ・ 石川准・長瀬修(2005)『障害学への招待』明石書店。など

第11回 - 第15回 社会保険編

- ・ 堀勝洋(2005)『年金の誤解』東洋経済新報社。
- ・ 清郷伸人(2006)『違憲の医療制度』ごま書房。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・80% 報告内容・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義IVB 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
					○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政策過程と政治現象を理解するため、著作を読んで議論し、それに関する理解と知識を広げてもらう。また、修士論文の作成に向けた論理構成、調査方法、論文の書き方について3 - 4回、議論する。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、以下の著作（政策過程の基本）を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部斉(1989)、現代政治と政治学、岩波書店
 佐伯啓思 (1997)、現代民主主義の病理、NHKBooks
 伊藤光利外 (2000)、政治過程論、有斐閣アルマ
 村松岐夫外 (2001)、日本の政治、有斐閣Sシリーズ
 蒲島郁夫外 (2007)、メディアと政治、有斐閣アルマ
 その他、論文
 以上の本、論文を、参加者の論文テーマに合わせ、議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 紹介、読みたい本を選ぶ。
 第 2回 ~ 第 5回 論理構成、調査方法、論文の書き方
 第 6回 ~ 第 10回 佐伯啓思、現代民主主義の病理、
 伊藤光利外、政治過程論、
 第 11回 ~ 第 14回 村松岐夫外、日本の政治。
 蒲島郁夫外、メディアと政治、有斐閣アルマ
 その他、論文のコピーを配布する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論、出席状況などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義VB 【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで演習に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告
- 3回～7回 文献輪読
- 8回 受講生の研究報告
- 9回～14回 文献輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席30%、報告40%、議論への参加・貢献30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえでの議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特殊講義VIB 【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 2学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。(政策研究特殊講義VI Aとの違いは、Aは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してBはAの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。)政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。(政策問題の例：失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策)

教科書 /Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ政策研究特殊講義VI Aで使用するテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、Bを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。また、the OECD (www.oecd.org)が提供しているデータや研究結果はたくさん利用しなければならないので、同機構のデータや研究の利用には学期中あるいはその前に慣れること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果を基に下に、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週の具体的なトピックは、第1・2週の授業の中で相談の上決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) 授業参加における積極性や質が40%、(2) 調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策応用第一特殊講義I 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治理論と公共哲学の諸理論は、現代の様々な公共政策の決定・評価に対してその理論的基盤を提供している。授業では、公共政策の決定・評価に関わる現代政治理論および公共哲学の諸理論について解説し、また受講者との議論を通じて現代政治理論と公共哲学の視点から、公共政策の決定・評価について理解を深めることを目的とする。講義全体のキーワードは、現代政治理論・公共哲学・公共政策である。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

足立幸男著『政策と価値 - 現代の政治哲学 -』ミネルヴァ書房(1991年1月)
W. キムリッカ著、訳者代表 千葉真・岡崎晴輝『新版 現代政治理論』日本経済評論社(2005年11月)
佐々木毅・金泰昌編『21世紀公共哲学の地平 - 公共哲学10 -』東京大学出版会(2002年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入「科学は公共政策の決定・評価に対して何を為しうるのか」
- 2回 現代政治理論と公共政策1「功利主義」
- 3回 現代政治理論と公共政策2「保守主義」
- 4回 現代政治理論と公共政策3「リベラリズム」
- 5回 現代政治理論と公共政策4「リパタリアニズム」
- 6回 現代政治理論と公共政策5「ロールズの正義論」
- 7回 現代政治理論と公共政策6「コミュニタリアニズム」
- 8回 現代政治理論と公共政策7「シティズンシップ理論」
- 9回 現代政治理論と公共政策8「多文化主義」
- 10回 「公共哲学とは何か」
- 11回～14回 公共哲学と公共政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(受講態度も含む)・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策応用第一特殊講義II 【昼】

担当者名 /Instructor 中園 哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 日本でも有数の公害被害を経験した北九州市が、公害を克服しただけでなくその経験を活かして世界に誇れる環境モデル都市となったのは何故か？ 北九州独自の考え方と成功要因を考える。
- 公害問題の背景と具体的な公害克服の過程を通じて、市民・企業・行政・大学の果たした役割を理解し、公害問題解決の手法を学ぶ。また、公害を克服したにも拘わらず、市民をはじめとして「公害都市・北九州」のイメージが定着していた北九州市が、どのようにして「環境先進都市」へと脱皮することができたのかを学ぶ。
- 環境国際協力の実績を通じて、国際社会における日本への期待と北九州市の貢献を理解するとともに、地球環境問題への取組や環境ODAの意義を考える。また、廃棄物行政の経緯とエコタウンへの発展の過程を通じて資源循環型社会づくりにおける市民・企業・行政・大学の新しい役割を考える。これらに基づき、環境モデル都市の構築とアジアへの普及についてどのようなことができるか、何をすべきかを考える。

教科書 /Textbooks

参考文献、教科書なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市の環境政策の概要
- 2回 公害問題の発生と対策
- 3回 スモッグ警報発令と全市の協力体制確立
- 4回 公害国会における公害関連法制度の確立
- 5回 大気汚染とその対策
- 6回 水質汚濁とその対策
- 7回 公害の克服とその評価
- 8回 環境国際協力【ODA】
- 9回 国際社会からの評価
- 10回 廃棄物処理対策の方針転換「処理重視から資源リサイクルへ」
- 11回 エコタウン【3R】
- 12回 広域環境対策への貢献【PCB】、【リスクコミュニケーション】
- 13回 環境教育と市民活動
- 14回 地球環境問題への取組【地球温暖化防止】
- 15回 環境モデル都市への道【低炭素社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席とレポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策応用第一特殊講義Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大久保 裕文 / 北方キャンパス 非常勤講師, 間仁田 幸雄 / Yukio Manita / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
					○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

(大久保) 都市化社会の今日、経済活動や生活環境の再編整備は、都市政策の上の主要課題となっている。この講義ではよりよい地域社会のあり方を学ぶため、都市政策や都市問題への解決策の1つとして、実際の都市計画や市街地整備の事例を取り上げて学習を行う。

(間仁田) 従来都市政策は、行政の問題として論じられることが多かった。しかし、現在はNPOの時代、公民パートナーシップの時代である。NPOのまちづくりへの参画が進み、中心市街地活性化におけるTMO(まちづくり機関)の活動が注目を集めている。また、企業には「企業市民」としての社会的責任や地域社会への貢献が求められている。さらにベンチャー育成など地域産業の活性化も必要となっている。こうした状況を踏まえて、都市の再生について、具体的な事例を取り上げて検証する。

教科書 /Textbooks

(大久保) 講師の作成する簡易テキストを使用する。
(間仁田) とくに指定しない。毎回の講義の際にレジュメおよび必要な資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

(大久保) 講義で提示する。
(間仁田) 講義のなかで逐次紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(大久保)

1回 【市町村の基本構想】

平成の大合併によってそれまでの市町村数は、半分近くになった。市町村合併への流れと意義及び、地方自治法関連の市町村の基本構想の具体的な事例を取り上げる。

2回 【都市のマスタープラン】

都市の環境整備を進める上で様々なマスタープランが存在する。都市計画法関連の都市のマスタープランの枠組みと役割について具体的な事例都市を取り上げる。

3回 【市街地の整備】

市街地の環境整備は、面的な広がりをもつ市街地構造の再編や土地利用の改編等を対象とされる。今日の要請や制度等の活用の具体的な事例を取り上げる。 した都市の計画技術によって行わ

4回 【都市景観】

平成17年施行の都市景観法によって都市の景観が広く論議されるようになった。昭和50年代から、都市景観整備事例を取り上げる。 からの都市の景観論議を学習しな

5回 【まちづくり】

地方の時代が標榜されて既に30年が経った。地域住民の主体性によるまちづくり活動は、様々な参加形態が見られている。まちづくりの系譜を踏まえ、環境整備の面から都市の今後のあり方を学ぶ。

(間仁田)

第1回～第2回【企業の地域開発プロジェクト】

・企業の地域開発プロジェクトと地域社会の活性化との関係について、北九州市のスペースワールドなどの具体的な事例を取り上げて、民間主導による地域開発プロジェクトの役割や課題を考察し、あわせてPFIなど公民パートナーシップの最近の動向について考察する。

第3回～第4回【企業の地域社会への貢献】

・企業の「企業市民」としての社会的責任の遂行と地域社会への貢献のあり方や課題について、アメリカにおける事例も含めて検証する。

第5回～第7回【地域産業の活性化】

・ベンチャービジネスの育成支援や中小企業の経営革新による地域産業活性化の進め方と課題について、北九州市をはじめとした各地のリサーチパークの事例をもとに検証する。あわせて、ビジネス支援型NPOの紹介を行う。

第8回～第10回【中心市街地の活性化と市民の役割】

・市民主導型まちづくりの先駆的事例として湯布院のまちづくりを紹介する。
・中心市街地の衰退要因を考察した上で、まちづくり3法改正のなかでの中心市街地の活性化問題を 取り上げ、TMO(まちづくり機関)の役割や課題について、岐阜県大垣市、埼玉春日部市の具体的な事例を取上げ考察する。
・あわせて中心市街地活性化のサクセス・ストーリーとして、サンタモニカと金沢市堅町商店街の事例を紹介する。

政策応用第一特殊講義Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(大久保)小論文の提出とし、テーマは最終講義時に提示する。
(間仁田)複数のテーマのうちから選択して、小論文を作成する。A4用紙に、写真や図表なども含めて8～10枚。1ページは40字×40行とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法第一特別研究【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の論文執筆に資する文献等の紹介・輪読などを通して、修士論文作成上の助言・指導を行います。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は一応の目安であり、受講者との協議により適宜変更されることがあります。

第1回 ガイダンス 受講者と相談の上でゼミ運営方法・ゼミの実施内容につき協議します。

第2回～第5回 文献・判例の分析検討(1)～(4)

第6回～第10回 文献・判例の分析検討(5)～(9)

第11回～第14回 文献・判例の分析検討(10)～(13)

第15回 研究報告とまとめ

第16回～第20回 文献・判例の分析検討(14)～(18)

第21回～第25回 文献・判例の分析検討(19)～(23)

第21回～第25回 文献・判例の分析検討(19)～(23)

第26回～第29回 文献・判例の分析検討(24)～(27)

第30回 研究報告とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・議論内容・研究報告書の内容等を含む、ゼミへの参加度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、受講者各自の自発的な調査・研究活動が求められます。

詳細については、第1回のゼミのみならず、随時、お知らせします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第一特別研究【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに応じて、刑法的知識の拡充を図り、より一層深い刑法学に関する幅広い知識と論理的思考力を身につけることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

開講後、適宜決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講後、適宜決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート及び平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第一特別研究【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の論文指導。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の進捗状況を考慮して決めていくことにする。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の成果 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定の文献を事前に十分吟味し検討すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第一特別研究 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 講義・演習 ア) クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の選択した研究テーマについて、主に理論的および方法論的問題に焦点をあてて、英米の重要文献を批判的に検討する。上記の検討を踏まえて、各自の研究テーマに即した「リサーチ・デザイン」の検討・作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学生と相談の上、決めます。
- 2回～29回 以下同じ。
- 30回 レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文作成の基礎づくりのために、刑事法関連科目の受講を薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第一特別研究 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文・特定課題研究等の作成を間接的に支援することを目的とします。

院生の中には、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、国際法上の議論に触れ、その理解を深める必要を感じている者が少なからずいることと思われます。本講義では、そのような事情を有する彼ら/彼女らに対し、その機会を提供しようということを考えています。

受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていっこうに構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の専門領域とは異なったとしても、他の受講者の研究に興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れないでください。

なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。

E-mail: ninomiya@kitakyu-u.ac.jp

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。

アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史第一特別研究【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第一特別研究【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)
論文指導を中心に行なう。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。
昨年度は、受講生の研究テーマがヘルマン・ヘラー、カール・シュミット、ハンス・ケルゼンなどドイツの政治思想に関するものであったので、ヘラーとシュミットに関する著書、論文を講読した。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献一覧を一緒に作成します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマの決定
参考文献一覧の作成
参考文献に関する発表
論文の中間発表の順に進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジユメの作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究第一特別研究【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文もしくは特別課題論文作成にあたっての指導を行う。今年度は半年で終了の予定である

教科書 /Textbooks

特になし(論文の書き方などの文献を時に使うことがある)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回～15回
各自の論文の進捗状況の報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 発表方法・内容 ... 30 % 討論への参加 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文作成にあたっての日常的な調査研究の準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特別研究【昼】

担当者名 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今後の都市政策の主要な地位を占める産業振興政策を中心とした「まちづくり政策」について、論文作成を支援する。
具体的なテーマは、受講生の研究内容に応じて決定する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な都度、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究進捗状況に合わせて、その都度決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究内容に関連するデータの収集をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特別研究【昼】

担当者名 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

公共政策論もしくは地域公共政策の論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせて、その都度決定していきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第一特別研究【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書 /Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文作成者の分野が判明するまでなし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適切な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即始める。それがある程度終わった後研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

成績評価の方法 /Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の内容・スケジュールに書かれていることを実行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第一特別研究【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士の学位論文を作成するための研究指導です。憲法原理や憲法政治、人権理論に関するテーマを選び、文献の収集と読解、問題状況の認識と分析をとおして、論文作成を目指します。一般的に、いい論文を書くには、とにかくいい論文(日本語の論文も外国語の論文も)をいっぱい読むことです。いい本や論文をいっぱい読むと、自然と書き方、論じ方がわかってきます。文献検索は、自主的に行うようにして下さい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第一特別研究【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究は、修士学位論文を作成するための研究指導である。
受講者の関心領域に応じて、論文作成に必要な文献を選び、順次検討するとともに、論文作成に向けた指導を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
2回以降 関心領域の確認、基礎的な文献の選択、文献についての解説、その他の文献の検討、テーマの確定、論文作成過程の指導等を順次行う。
(進捗状況については適宜報告を求める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

初年度については、出席... 50% 報告... 50%
次年度については、論文の評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第一特別研究【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(ベア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導をすることを目的とした授業です。各自の研究に役立つ範囲で、ドイツ民法またはフランス民法に関する外国文献と一緒に読もうと思っています。

教科書 /Textbooks

指定はありません。外国文献についてはコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究テーマ、研究計画策定。
- 3回 研究方法の検討・指導
- 4回～14回 研究計画に沿った研究指導
- 15回 まとめ、成果の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% レポート(200字詰め原稿用紙30枚程度)...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生が主体的に取り組むのでなければ研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジユメを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第一特別研究 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法哲学の修士論文もしくは特定課題研究の論文執筆を指導し、その完成を目指す。具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定する。

教科書 /Textbooks

テキストや参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談の上決定する。研究テーマにあった参考文献の報告など、受講生による報告が中心となる。研究が進んだ段階で、論文構想の中間発表や直前発表なども行ってもらおう。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私法領域第一特別研究【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、「社会人コース」、「アドバンスコース」の院生を対象に修士論文又は特定課題研究完成に向けた指導を行うことを目的として開講しています。指導の詳細は院生と相談の上、決定します。初回のガイダンスには必ず出席してください。

教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-指導教員、指導内容の相談
- 2回～3回 研究指導計画作成
- 4回～14回 研究指導計画に従った研究指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

指導教員によって異なります。担当指導教員に問い合わせてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当指導教員に問い合わせてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公法領域第一特別研究【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

公法領域特別研究は、「社会人コース」または「アドバンスコース」の学生が修士論文または特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。
受講者の関心領域に応じて、論文等の作成に必要な文献を選び、順次検討する。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
2回以降 関心領域の確認、基礎的な文献の選択、文献の内容についての解説、その他の文献の収集と検討、テーマの確定、論文等の作成作業についての指導等を順次行う。
(進捗状況については適宜報告を求める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

初年度については、出席... 50% 報告... 50%
次年度については、修士論文 / 特定課題研究成果の評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策第一特別研究【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治(思想)と地域政策(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)
論文指導を中心に行なう。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献一覧を一緒に作成します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマの決定
参考文献一覧の作成
参考文献に関する発表
論文の中間発表の順に進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメの作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政策第一特別研究【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際学や開発学に関する修士論文もしくは特別課題論文作成にあたっての指導を行う。

教科書 /Textbooks

特になし(論文の書き方などの文献を時に使うことがある)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
2回～15回
各自の論文の進捗状況の報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 発表方法・内容 ... 30 % 討論への参加 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文作成にあたっての日常的な調査研究の準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第一特殊講義IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実際の民事訴訟は，実体法と手続法が交錯した世界であるが，具体的な訴訟事件を例に，民事訴訟の実務に関する基礎を学ぶ。

教科書 /Textbooks

講義の際にレジメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

民事訴訟法と実体法（特に民法）の知識は，講義の前提として必須であるから，各自学習すること。講義には六法を持参すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験のみ。出席点は原則としてつけない。（ゼミ形式にした場合は出席の有無も加味する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律実務第一特殊講義B【夜】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師, 奥田 克彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
阿野 寛之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ① 刑事事件における実務上の諸問題 (担当 弁護士阿野寛之)
- ② 法律相談の実務 (担当 弁護士奥田克彦)
- ③ マンションの法律問題 (担当 弁護士中村仁)

教科書 /Textbooks

講義の際にレジメを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

未定

成績評価の方法 /Assessment Method

未定 (ただし期末試験, レポートに重きを置く)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記①は刑事法, 上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから, 各自学部で習ったことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策応用第一特殊講義Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 古田 稔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀は企業や政府が社会を牽引してきましたが21世紀は自己責任と市民社会の時代です。社会サービス・財や雇用を市民自ら作り出すNPOが活躍する社会について講師の実践体験を交えて講義します。講義全体のキーワードは市民、コミュニティ、社会的企業(ソーシャルエンタープライズ)です。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：NPOの[ミッション]
- 2回：[市民の自立]とNPO法施行から現在まで
- 3回：[市民の自立]とNPO 福岡県、北九州市、福岡市の場合
- 4回：NPOの歴史的変遷と[NPO法人制度]
- 5回：[NPOと政府、企業]との[協働] 福岡県、北九州市の事例
- 6回：NPOな人々
- 7回：指定管理者制度とNPO
- 8回：社会サービスとNPO
- 9回：[NPOと政府、企業]
- 10回：[社会的企業(ソーシャルエンタープライズ)]
- 11回：[社会的使命]と経営戦略
- 12回：[NPOでのリーダーシップ]と組織運営の実際
- 13回：[NPOのマネージメント(資金、計画、評価)]の実際
- 14回：[NPOの事業プラン]の作成
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...60% 出席...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国内外における最近のNGO.NPO、社会的企業の動向を新聞、雑誌などで読み込んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords